

東彼杵中学校校長だより（令和2年7月 8日：水 配信）

その10「郡中学校体育大会（球技・武道）」（7/ 5：日）

新型コロナウイルス感染症予防対策と、大雨を心配しましたが、何とか開催できました。がんばった選手の皆さんお疲れ様でした。結果はHPに掲載しています。また、大会関係者の皆様、保護者の皆様、様々にご協力をいただき本当にありがとうございました。そして、日頃指導をいただいております、野球：立山裕次様、剣道：粒崎正明様、山口三男様、男子バスケット：橋口淳信様、下田智和様、女子バスケット：井関嘉昭様、男子テニス：馬場隆幸様、吉田智志様、女子ソフト：丸尾博文様、バレー：隅英幸様、あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。



その11「試験勉強…できていること、できたことをほめる」（7/ 8：水）

中体連が終わると、次は期末試験です。13日（月）、14日（火）に実施します。保護者の方々も、ご自身が経験しているので、つい「いつまでテレビば見とっと。」「YouTube ばっか見とらんで勉強しなさい。」と、わが子のためと思い、厳しく言われているのではないのでしょうか。そして、親からそう言われても、なかなかやる気が起きなかった記憶もあることでしょうか。だからこそ、当時の自分を振り返り、あの頃、どんなふうに言われれば自分はやる気になっていたかな？と考えてみてはどうでしょうか。職場でも人をその気にさせる（促す）言葉かけがあるかと思えます。また、声をかけずに任せることでやる気と自信、自主性を育てる場合もあるでしょう。言わずに待っているだけでは胃が痛くなる思いもするかもしれません。お子様のことを一番知っていて、理解しているのは保護者の方です。是非、ご自身の経験を振り返り、どうしたらやる気になるかを試されてみてください。また、こんな方法もあります。必ずうまくいくというものではありませんが、紹介します。お子様には勉強の予定・計画・見通しを語らせ、保護者の方は経験者としてのアドバイスを語ります。顔を合わせたときには、取組の状況を尋ね、自分の言葉で振り返らせます。そして、できていることを褒めます。できていないことをお子様自身に考えさせ、次の対策を自分の言葉で語らせます。このことで、今後の成長に併せて自主性・主体性が育まれていくと言われています。試験の点数についても、できたことを褒め、できなかったことは子ども自身に取組の反省と今後に向けての対策を語らせてみてください。中学校の勉強は難しくなり、親が教えることができなくなると聞きます。始まりに「勉強しなさい。」、終わったら「点数は？」の関わりだけでなく、取組の途中を励ますことで、教えることができなくても一緒に取り組み支えていけると考えます。子どもと親とで目標や方法を共有するという事です。だから、してない時、できていないことに目標を共有している家族として注意ができるのです。「言っていることとしていることが違うじゃないか！」が言えるのではないのでしょうか。共有がないまま、注意をする、「今からやろうと思っとったとに、やる気なくなったあ〜!!」とお決まりのセリフが返ってくるのかもしれませんが。

お子様も、保護者の方も、この期間中に精神的なストレスを抱えませんように……。学校では、勉強の仕方、学ぶことの意義、「できた・わかった」の喜びを教えています。

その12「警報と登校」（7/ 7：火）

台風接近・上陸や警報発令に伴う登下校の対応について一部修正しました。7月2日にホームページに再掲載していますのでご確認ください。写真は、学校の玄関ホールに掲示している「ハザードマップ」です。彼杵川を中心に学校近辺の浸水被害の予想を示し、生徒にも注意を喚起しています。今回の梅雨前線に伴う大雨特別警報の発令や、冬の爆弾低気圧の発生など、年間を通して気象災害が多くあります。学校も、生徒の安全に最善を尽くしていきます。

